



コンフィギュレーション ファイルの管理

コンフィギュレーションファイルを作成、ロード、維持することで、ユーザー設定のコマンドセットを生成し、現在のシスコ製ルーティングデバイスの機能性をカスタマイズできます。コンフィギュレーションファイル管理コマンドの詳細については、『*Cisco IOS Configuration Fundamentals Command Reference*』を参照してください。

- [コンフィギュレーションファイルの管理の前提条件 \(1 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーションファイルの管理の制約事項 \(1 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーションファイルの管理について \(2 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーションファイル情報の管理方法 \(8 ページ\)](#)

コンフィギュレーション ファイルの管理の前提条件

- ユーザーには、少なくとも Cisco IOS 環境とコマンドライン インターフェイスに関する基本的な知識が必要です。
- システムでは、少なくとも最小限の設定が実行されていることが必要です。 **setup** コマンドを使用して基本的なコンフィギュレーション ファイルを作成できます (詳細については、「セットアップ モードを使用したシスコ ネットワーキング デバイスの設定」を参照してください)。

コンフィギュレーション ファイルの管理の制約事項

- このドキュメントで説明されている CiscoIOS コマンドの多くは、ルータの特定のコンフィギュレーション モードでのみ使用可能であり機能します。

コンフィギュレーションファイルの管理について

コンフィギュレーションファイルのタイプ

コンフィギュレーションファイルには、現在のシスコ製ルーティングデバイス（ルータ、アクセス サーバー、スイッチなど）の機能をカスタマイズするために使用される、Cisco IOS ソフトウェア コマンドが含まれています。コマンドは、システムを起動したとき（startup-config ファイルから）、またはコンフィギュレーションモードでCLIにコマンドを入力したときに、Cisco IOS ソフトウェアによって解析（変換および実行）されます。

スタートアップコンフィギュレーションファイル（startup-config）は、ソフトウェアを設定するためにシステムの起動時に使用されます。実行コンフィギュレーションファイル

（running-config）には、ソフトウェアの現在の設定が含まれています。2つのコンフィギュレーションファイルは別々の設定にできます。たとえば、コンフィギュレーションを永続的ではなく短期間だけ変更する場合があります。その場合は、**configure terminal EXEC** コマンドを使用して実行コンフィギュレーションを変更しますが、そのコンフィギュレーションは **copy running-config startup-config EXEC** コマンドを使用して保存しません。

実行コンフィギュレーションを変更するには、「CLIでのコンフィギュレーションファイルの変更」の説明に従って、**configure terminal** コマンドを使用します。Cisco IOS コンフィギュレーション モードの使用時には、通常コマンドはすぐに実行され、入力直後またはコンフィギュレーションモードを終了した時点で実行コンフィギュレーションファイルに保存されます。

スタートアップコンフィギュレーションファイルを変更するには、**copy running-config startup-config EXEC** コマンドを使用してスタートアップコンフィギュレーションに実行コンフィギュレーションファイルを保存するか、ファイルサーバーからスタートアップコンフィギュレーションにコンフィギュレーションファイルをコピーします（詳細については、「TFTPサーバーからルータへのコンフィギュレーションファイルのコピー」を参照してください）。

コンフィギュレーションモードおよびコンフィギュレーションソースの選択

ルータ上でコンフィギュレーションモードを開始するには、特権EXECプロンプトで**configure** コマンドを入力します。Cisco IOS ソフトウェアは次のプロンプトで応答し、端末、メモリ、またはネットワークサーバー（ネットワーク）上に格納されたファイルのいずれかを、コンフィギュレーション コマンドのソースとして指定するように要求されます。

```
Configuring from terminal, memory, or network [terminal]?
```

端末からの設定では、コマンドラインにコンフィギュレーションコマンドを入力できます（次の項を参照してください）。メモリからの設定では、スタートアップコンフィギュレーションファイルがロードされます。詳細については、「スタートアップコンフィギュレーションファイルでのコンフィギュレーションコマンドの再実行」の項を参照してください。ネットワークからの設定では、ネットワーク経由でコンフィギュレーションコマンドをロードして実行でき

ます。詳細については、「TFTP サーバからルータへのコンフィギュレーション ファイルのコピー」の項を参照してください。

CLI を使用したコンフィギュレーション ファイルの変更

Cisco IOS ソフトウェアは、1 行につき 1 つのコンフィギュレーション コマンドを受け入れます。コンフィギュレーション コマンドは、必要なだけ入力できます。コンフィギュレーション ファイルには、入力したコマンドを説明するコメントを追加できます。コメントの先頭には、感嘆符 (!) を付けます。コメントは NVRAM にもコンフィギュレーション ファイルのアクティブ コピーにも格納されないため、**show running-config or more system:running-config EXEC** コマンドでアクティブな設定のリストを表示しても、コメントは表示されません。**show startup-config** または **more nvram:startup-config EXEC** モード コマンドでスタートアップ コンフィギュレーションのリストを表示しても、コメントは表示されません。コメントは、コンフィギュレーション ファイルがルータにロードされたときにコンフィギュレーション ファイルから削除されます。ただし、ファイル転送プロトコル (FTP)、リモートコピープロトコル (RCP)、または Trivial File Transfer Protocol (TFTP) サーバ上に格納されているコンフィギュレーション ファイルのコメントのリストは表示できます。CLI を使用してソフトウェアは設定するときは、ユーザーの入力に従ってソフトウェアによりコマンドが実行されます。

コンフィギュレーション ファイルの場所

コンフィギュレーション ファイルは、次の場所に格納されます。

- 実行コンフィギュレーションは RAM に格納されます。
- クラス A フラッシュ ファイル システム プラットフォーム以外のすべてのプラットフォーム上では、スタートアップ コンフィギュレーションは不揮発性 RAM (NVRAM) に格納されます。
- クラス A フラッシュ ファイル システム プラットフォーム上では、スタートアップ コンフィギュレーションは CONFIG_FILE 環境変数で指定された場所に格納されます (詳細については、の項を参照してください)。CONFIG_FILE 変数は、デフォルトでは NVRAM になりますが、次のファイル システムのファイルも指定できます。
 - **nvram:** (NVRAM)

ネットワーク サーバからルータへのコンフィギュレーション ファイルのコピー

TFTP、rcp、または FTP サーバからルータの実行コンフィギュレーションまたはスタートアップ コンフィギュレーションへコンフィギュレーション ファイルをコピーできます。この機能は、次のいずれかの理由により実行する場合があります。

- バックアップ コンフィギュレーション ファイルを復元するため。

- 別のルータにコンフィギュレーションファイルを使用するため。たとえば、別のルータをネットワークに追加して、そのルータのコンフィギュレーションを元のルータと同様にする場合です。新しいルータにファイルをコピーすることにより、ファイル全体を再作成するのではなく、該当部分を変更できます。
- 同一のコンフィギュレーション コマンドをネットワーク内のすべてのルータにロードして、すべてのルータのコンフィギュレーションを同様にするため。

コマンドラインにコマンドを入力した場合と同様に、**copy {ftp:|rcp:|**

tftp:system:running-configEXEC コマンドはルータにコンフィギュレーションファイルを読み込みます。コマンドを追加する前に、ルータにより既存の実行コンフィギュレーションが削除されることはありません。コピーされたコンフィギュレーションファイル内のコマンドによって既存のコンフィギュレーションファイル内のコマンドが置き換えられた場合、既存のコマンドは削除されます。たとえば、コピーされたコンフィギュレーションファイルに含まれている特定のコマンドの IP アドレスが、既存のコンフィギュレーションと異なる場合は、コピーされたコンフィギュレーション内の IP アドレスが使用されます。ただし、既存のコンフィギュレーション内の一部のコマンドには、置き換えられたり無効になったりしないものもあります。このような場合、既存のコンフィギュレーションファイルとコピーされたコンフィギュレーションファイルで混成されたコンフィギュレーションファイルが作成され、コピーされたコンフィギュレーションファイルが優先されます。

コンフィギュレーションファイルをサーバ上に格納されているファイルの正確なコピーとして復元するには、そのコンフィギュレーションファイルをスタートアップコンフィギュレーションに直接コピーし (**copyftp:|rcp:|tftp:|nvram:startup-config** コマンドを使用)、ルータをリロードする必要があります。

サーバからルータへコンフィギュレーションファイルをコピーするには、次の項で説明する作業を実行します。

使用するプロトコルは、使用中のサーバのタイプに応じて異なります。FTP および rcp のトランスポートメカニズムは、TFTP よりも高速でデータ配信の信頼性も優れています。これらの改善は、FTP および rcp のトランスポートメカニズムがコネクション型の TCP/IP スタック上に構築されており、これを使用しているために可能になりました。

ルータから TFTP サーバへのコンフィギュレーションファイルのコピー

一部の TFTP 実装では、TFTP サーバ上にダミーファイルを作成し、読み取り、書き込み、および実行を許可してから、ダミーファイルを上書きする形でファイルをコピーする必要があります。詳細については、ご使用の TFTP のマニュアルを参照してください。

ルータから FTP サーバへのコンフィギュレーションファイルのコピー

ルータから FTP サーバへコンフィギュレーションファイルをコピーできます。

FTP ユーザ名およびパスワードの概要

FTP プロトコルでは、FTP 要求ごとにリモートユーザ名およびパスワードを、クライアントがサーバに送信する必要があります。FTP を使用してルータからサーバへコンフィギュレーション

セッションファイルをコピーする場合、Cisco IOS ソフトウェアは次の順番で最初に発見した有効なユーザ名を送信します。

1. **copy EXEC** コマンドで指定されたユーザ名（ユーザ名が指定されている場合）。
2. **ip ftp username** グローバル コンフィギュレーション コマンドで設定されたユーザ名（コマンドが設定されている場合）。
3. Anonymous

ルータは次の順番で最初に発見した有効なパスワードを送信します。

1. **copy** コマンドで指定されたパスワード（パスワードが指定されている場合）。
2. **ip ftp password** コマンドで設定されたパスワード（コマンドが設定されている場合）。
3. ルータは、**username @routername .domain** というパスワードを生成します。変数 *username* は現在のセッションに関連付けられたユーザ名、*routername* は設定済みのホスト名、*domain* はルータのドメインです。

ユーザー名およびパスワードは、FTPサーバーのアカウントに関連付けられている必要があります。サーバに書き込む場合、ルータ上のユーザからの FTP 書き込み要求を受け入れるように、FTP サーバを適切に設定する必要があります。

このサーバがディレクトリ構造をとっている場合、コンフィギュレーションファイルまたはイメージは、サーバ上のユーザ名と関連付けられたディレクトリに書き込まれるか、そのディレクトリからコピーされます。たとえば、システムイメージがサーバ上のユーザのホームディレクトリにある場合は、そのユーザの名前をリモート ユーザ名として指定します。

詳細については、ご使用の FTP サーバのマニュアルを参照してください。

すべてのコピー操作に使用するユーザ名およびパスワードを指定するには、**ip ftp username** および **ip ftp password** グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用します。特定のコピー操作にのみ使用するユーザ名を指定する場合は、**copy EXEC** コマンド内でユーザ名を指定します。



- (注) パスワードには特殊文字「@」、「:」、および「/」を含めることはできません。これらの特殊文字が使用されている場合、コピーはサーバーの IP アドレスを解析できません。

VRFによるファイルのコピー

copy コマンドで指定した VRF インターフェイス経由でファイルをコピーできます。**copy** コマンドで VRF を指定するほうが、変更リクエストを使用して設定を変更しなくても送信元インターフェイスを直接変更でき、簡単で効率的です。

次の例に、**copy** コマンドを使用して VRF 経由でファイルをコピーする方法を示します。

```
Device# copy scp: slot0: vrf test-vrf
Device# copy scp: slot0: vrf test-vrf
Address or name of remote host [10.1.2.3]?
Source username [ScpUser]?
```

```
Source filename [/auto/tftp-server/ScpUser/vrf_test.txt]?
Destination filename [vrf_test.txt]?
Getting the vrf name as test-vrf
Password:
Sending file modes: C0644 10 vrf_test.txt
!
223 bytes copied in 22.740 secs (10 bytes/sec)
```

NVRAM より大きいコンフィギュレーションファイル

NVRAM より大きいコンフィギュレーションファイルを維持管理するには、以降の項の情報を知っておく必要があります。

コンフィギュレーションファイルの圧縮

servicecompress-config グローバルコンフィギュレーションコマンドは、コンフィギュレーションファイルを圧縮して NVRAM に格納することを指定します。コンフィギュレーションファイルが圧縮されると、ルータは正常に機能します。システムの起動時に、システムはコンフィギュレーションファイルが圧縮されていることを認識し、圧縮されたコンフィギュレーションファイルを展開して、正常に処理を進めます。**morenvram:startup-config EXEC** コマンドにより、コンフィギュレーションが展開されてから表示されます。

コンフィギュレーションファイルを圧縮する前に、適切なハードウェアのインストールおよびメンテナンスマニュアルを参照してください。ご利用のシステムの ROM がファイル圧縮をサポートしていることを確認します。サポートしていない場合、ファイル圧縮をサポートしている新しい ROM をインストールできます。

コンフィギュレーションのサイズは、NVRAM のサイズの 3 倍を超えてはいけません。NVRAM のサイズが 128 KB の場合、展開できる最大のコンフィギュレーションファイルのサイズは 384 KB です。

servicecompress-config グローバルコンフィギュレーションコマンドは、Cisco IOS ソフトウェア Release 10 以降のブート ROM を使用している場合に限り実行できます。新しい ROM のインストールは 1 回限りの操作で、ROM に Cisco IOS Release 10 がない場合にのみ必要です。ブート ROM が圧縮コンフィギュレーションを認識しない場合は、次のメッセージが表示されます。

```
Boot ROMs do not support NVRAM compression Config NOT written to NVRAM
```

ネットワークからのコンフィギュレーションコマンドのロード

コンフィギュレーションが大きい場合は、FTP、TFTP のいずれかのサーバに格納しておき、システムの起動時にダウンロードすることもできます。ネットワークサーバを大きいコンフィギュレーションの保存に使用するためのコマンドの詳細については、「ルータから TFTP サーバへのコンフィギュレーションファイルのコピー」および「コンフィギュレーションファイルをダウンロードするためのルータの設定」の各項を参照してください。

パーサー キャッシュの制御

Cisco IOS ソフトウェアの Cisco IOS コマンドライン パーサーは、コマンドラインを変換および実行（解析）します。パーサー キャッシュ機能は、大きいコンフィギュレーション ファイルを迅速に処理するために開発されました。これにより、ロード時間が大幅に改善されます。

パーサー キャッシュ機能では、簡略化された解析グラフをダイナミックに作成、キャッシュ、および再使用することにより、コンフィギュレーションファイル内の、前回使用された設定行と微妙に異なる設定行（たとえば `pvc 0/100`、`pvc 0/101` など）が、迅速に認識および変換できるようになります。この改善は、主に同じようなコマンドを何百回、何千回と繰り返すコンフィギュレーションファイルに役立ちます。このようなコンフィギュレーションファイルには、サブインターフェイス用に何千もの仮想回線を設定する必要がある場合や、何百ものアクセスリストを設定する必要がある場合があります。数値の引数だけが異なる同一のコマンドが繰り返し使用されているファイルのほとんどで、性能が向上します。

パーサー キャッシュは、Cisco IOS Release 12.1(5)T 以降のリリースを使用するすべてのプラットフォームで、デフォルトでイネーブルにされています。ただし、大きいコンフィギュレーションファイルが必要としないシスコ デバイスを使用しているユーザーの場合は、パーサー キャッシュをディセーブルにし、この機能で使用されるリソースを解放できます（この機能により使用されるメモリは、解析されるコンフィギュレーションファイルのサイズに依存しますが、通常は 512 KB 未満です）。

パーサー キャッシュを制御するには、いくつかの方法があります（これらはすべて任意です）。

- パーサー キャッシュのクリア：リソースを解放するか、またはパーサー キャッシュのメモリをリセットするために、パーサー キャッシュ機能に格納されている解析エン트리およびヒット数とミス数の統計情報をクリアすることもできます。
- パーサー キャッシュのディセーブル化：パーサー キャッシュ機能は、デフォルトでイネーブルされています。パーサー キャッシュ機能をディセーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで `no parser cache` コマンドを使用します。パーサー キャッシュがディセーブルになると、`noparsercache` コマンドラインが実行コンフィギュレーションファイルに書き込まれます。システム リソースを解放するためにパーサー キャッシュをディセーブルにする場合は、`noparsercache` コマンドを発行する前にパーサー キャッシュをクリアする必要があります。パーサー キャッシュをディセーブルにした後は、パーサー キャッシュをクリアできません。
- パーサー キャッシュの再イネーブル化：パーサー キャッシュ機能をディセーブルにした後、再度イネーブルにするには、グローバルコンフィギュレーションモードで `parsercache` コマンドを使用します。
- パーサーのモニタリング：最後に解析されたコンフィギュレーションファイルに関する統計情報は、パーサー キャッシュ機能により解析されたコマンドのヒット数とミス数の統計情報とともにシステム メモリに格納されます。「hits（ヒット数）」および「misses（ミス数）」は、前回使用された類似するコマンドに対し、コンフィギュレーションセッション中にパーサー キャッシュが検出した一致数を示しています。一致したコマンド（「hits」）は、より効率的に解析されます。一致しなかったコマンド（「misses」）の解析時間は、パーサー キャッシュにより改善されることはありません。

コンフィギュレーションファイルをダウンロードするルータの設定

システムの起動時に1つまたは2つのコンフィギュレーションファイルをロードするようにルータを設定できます。コンフィギュレーションファイルは、コマンドラインにコマンドを入力した場合と同様に、メモリにロードされ読み込まれます。したがって、ルータのコンフィギュレーションは、元のスタートアップコンフィギュレーションと1つまたは2つのダウンロードされたコンフィギュレーションファイルで混成されたものになります。

ネットワークとホストのコンフィギュレーションファイル

歴史的な理由から、ルータが最初にダウンロードするファイルは、ネットワークコンフィギュレーションファイルと呼ばれます。ルータが2番目にダウンロードするファイルは、ホストコンフィギュレーションファイルと呼ばれます。2つのコンフィギュレーションファイルは、ネットワーク上のすべてのルータが、同一コマンドの多くを使用する場合に使用できます。ネットワークコンフィギュレーションファイルには、すべてのルータを設定するために使用される標準コマンドが含まれます。ホストコンフィギュレーションファイルには、特定の1つのホストに固有のコマンドが含まれます。2つのコンフィギュレーションファイルをロードする場合、ホストコンフィギュレーションファイルを、もう1つのファイルより優先させる必要があります。ネットワークコンフィギュレーションファイルおよびホストコンフィギュレーションファイルは、両方ともTFTP、`rpc`、FTPのいずれかを介して到達可能なネットワークサーバ上にあり、読み取り可能である必要があります。

コンフィギュレーションファイル情報の管理方法

コンフィギュレーションファイル情報の表示

コンフィギュレーションファイルに関する情報を表示するには、このセクションの手順を実行します。

手順の概要

1. `enable`
2. `show boot`
3. `more file-url`
4. `show running-config`
5. `show startup-config`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><code>enable</code></p> <p>例 :</p> <pre>Device> enable</pre>	<p>特権 EXEC モードを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • パスワードを入力します (要求された場合)。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	show boot 例： Device# show boot	BOOT 環境変数の内容、CONFIG_FILE 環境変数によって指定されているコンフィギュレーションファイルの名前、およびBOOTLDR 環境変数の内容を示します。
ステップ 3	more file-url 例： Device# more 10.1.1.1	指定されたファイルの内容を表示します。
ステップ 4	show running-config 例： Device# show running-config	実行コンフィギュレーションファイルの内容を表示します（ more system:running-config コマンドのコマンドエイリアスです）。
ステップ 5	show startup-config 例： Device# show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルの内容を表示します。（ more nvram:startup-config コマンドのコマンドエイリアスです）。 クラス A フラッシュ ファイル システム プラットフォーム以外のすべてのプラットフォーム上では、通常、デフォルトの startup-config ファイルは NVRAM に格納されます。クラス A フラッシュ ファイル システム プラットフォーム上では、CONFIG_FILE 環境変数はデフォルトの startup-config ファイルを指定します。CONFIG_FILE 変数のデフォルトは NVRAM になります。

CLIでのコンフィギュレーションファイルの変更

Cisco IOS ソフトウェアは、1 行につき 1 つのコンフィギュレーション コマンドを受け入れません。コンフィギュレーション コマンドは、必要なだけ入力できます。コンフィギュレーション ファイルには、入力したコマンドを説明するコメントを追加できます。コメントの先頭には、感嘆符 (!) を付けます。コメントは NVRAM にもコンフィギュレーション ファイルのアクティブ コピーにも格納されないため、**show running-config** or **more system:running-config EXEC** コマンドでアクティブな設定のリストを表示しても、コメントは表示されません。

show startup-config または **more nvram:startup-config EXEC** モード コマンドでスタートアップ コンフィギュレーションのリストを表示しても、コメントは表示されません。コメントは、コンフィギュレーション ファイルがルータにロードされたときにコンフィギュレーション ファイルから削除されます。ただし、ファイル転送プロトコル (FTP)、リモートコピープロトコル (RCP)、または Trivial File Transfer Protocol (TFTP) サーバ上に格納されているコンフィギュレーション ファイルのコメントのリストは表示できます。CLI を使用してソフトウェアは設定するときは、ユーザの入力に従ってソフトウェアによりコマンドが実行されます。CLI を

使用してソフトウェアを設定するには、特権EXECモードを開始して次のコマンドを使用します。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. 次のいずれかを実行します。
 - **end**
 - **^Z**
4. **copy system:running-config nvram:startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>enable</p> <p>例 :</p> <pre>Device> enable</pre>	<p>特権 EXEC モードを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<p>configure terminal</p> <p>例 :</p> <pre>Device# configure terminal</pre>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。必要なコンフィギュレーションコマンドを入力します。Cisco IOS マニュアルセットに、テクノロジー別に編成されたコンフィギュレーションコマンドが説明されています。</p>
ステップ 3	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • end • ^Z <p>例 :</p> <pre>Device(config)# end</pre>	<p>コンフィギュレーションセッションを終了し、EXEC モードに戻ります。</p> <p>(注) Ctrl キーと Z キーを同時に押すと、画面に ^Z と表示されます。</p>
ステップ 4	<p>copy system:running-config nvram:startup-config</p> <p>例 :</p> <pre>Device# copy system:running-config nvram:startup-config</pre>	<p>実行コンフィギュレーションファイルをスタートアップ コンフィギュレーションファイルとして保存します。</p> <p>copy running-config startup-config コマンドエイリアスも使用できますが、このコマンドは精度が高くないため、注意する必要があります。ほとんどのプラットフォーム上では、このコマンドによりコンフィギュレーションはNVRAMに保存されます。クラス A フラッシュファイルシステムのプラットフォーム上では、この手順によりコンフィギュレーションは CONFIG_FILE 環境変数によって指定された場所に保存されます (デフォルトの CONFIG_FILE</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		変数では、ファイルの保存先はNVRAMに指定されています。

例

次の例では、デバイスのデバイスプロンプト名を設定しています。感嘆符 (!) で示されたコメント行では、いずれのコマンドも実行されません。hostname コマンドを使用して、デバイス名を Device から new_name に変更しています。Ctrl-Z (^Z) キーを押すか、end コマンドを入力すると、コンフィギュレーションモードが終了します。copy system:running-config nvram:startup-config コマンドにより、現在のコンフィギュレーションがスタートアップ コンフィギュレーションに保存されます。

```
Device# configure terminal
Device(config)# !The following command provides the Device host name.
Device(config)# hostname new_name
new_name(config)# end
new_name# copy system:running-config nvram:startup-config
```

スタートアップ コンフィギュレーションが NVRAM にある場合は、スタートアップ コンフィギュレーションには現在の設定情報がコンフィギュレーションコマンドとしてテキスト形式で格納され、デフォルト以外の設定だけが記録されます。破損データから保護するために、メモリはチェックサム算出されます。



(注) 一部の特定のコマンドは、NVRAM に保存されない場合があります。これらのコマンドは、マシンをリブートしたときに再入力する必要があります。これらのコマンドは、マニュアルに記載されています。リブート後にすばやくデバイスを再設定できるように、これらの設定のリストを保管しておくことを推奨します。

ルータからTFTPサーバへのコンフィギュレーションファイルのコピー

TFTP ネットワーク サーバー上の設定をコピーするには、以下の手順を実行します。

手順の概要

1. enable
2. copy system:running-config tftp: [[[//location]/directory]/filename]
3. copy nvram:startup-config tftp: [[[//location]/directory]/filename]

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	copy system:running-config tftp: [[[//location]/directory]/filename] 例： Device# copy system:running-config tftp: //server1/topdir/file10	TFTP サーバーへ実行コンフィギュレーションファイルをコピーします。
ステップ 3	copy nvram:startup-config tftp: [[[//location]/directory]/filename] 例： Device# copy nvram:startup-config tftp: //server1/lstdir/file10	TFTP サーバーへスタートアップ コンフィギュレーションファイルをコピーします。

例

次に、デバイスから TFTP サーバーへコンフィギュレーションファイルをコピーする例を示します。

```
Tokyo# copy system:running-config tftp://172.16.2.155/tokyo-config
Write file tokyo-config on host 172.16.2.155? [confirm] y
Writing tokyo-config!!! [OK]
```

次の作業

copy コマンドを発行した後、追加情報またはアクションの確認を求めるプロンプトが表示される場合があります。表示されるプロンプトは、**copy** コマンドで入力した情報量および **fileprompt** グローバル コンフィギュレーション コマンドの現在の設定によって異なります。

ルータから FTP サーバへのコンフィギュレーションファイルのコピー

ルータから FTP サーバーへスタートアップ コンフィギュレーションファイルまたは実行コンフィギュレーションファイルをコピーするには、以下のタスクを実行します。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**

3. **ip ftp username** *username*
4. **ip ftp password** *password*
5. **end**
6. 次のいずれかを実行します。
 - **copy system:running-config ftp:** [[[/[*username* [:*password*]@]*location/directory*]/*filename*]
 -
 -
 - **copy nvram:startup-config ftp:** [[[/[*username* [:*password*]@]*location/directory*]/*filename*]

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	ip ftp username <i>username</i> 例： Device(config)# ip ftp username user1	(任意) デフォルトのリモートユーザー名を指定します。
ステップ 4	ip ftp password <i>password</i> 例： Device(config)# ip ftp password guessme	(任意) デフォルトのパスワードを指定します。
ステップ 5	end 例： Device(config)# end	(任意) グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。この手順は、デフォルトのリモートユーザー名またはパスワードを上書きする場合にだけ必要です（ステップ 2 および 3 を参照）。
ステップ 6	次のいずれかを実行します。 • copy system:running-config ftp: [[[/[<i>username</i> [: <i>password</i>]@] <i>location/directory</i>]/ <i>filename</i>] • • • copy nvram:startup-config ftp: [[[/[<i>username</i> [: <i>password</i>]@] <i>location/directory</i>]/ <i>filename</i>]	FTP サーバへ実行コンフィギュレーションまたはスタートアップ コンフィギュレーション ファイルをコピーします。

	コマンドまたはアクション	目的
	例 : Device# copy system:running-config ftp://user1:guessme@company.com /dir10/file1	

例

FTP サーバーへの実行コンフィギュレーションファイルの格納

次に、rtr2-config という名前の実行コンフィギュレーションファイルを、IP アドレスが 172.16.101.101 のリモート ホスト上の netadmin1 ディレクトリにコピーする例を示します。

```
Device# copy system:running-config ftp://netadmin1:mypass@172.16.101.101/Rtr2-config
Write file rtr2-config on host 172.16.101.101?[confirm]
Building configuration...[OK]
Connected to 172.16.101.101
Device#
```

FTP サーバーへのスタートアップコンフィギュレーションファイルの格納

次に、FTPを使用してファイルをコピーすることによって、サーバー上にスタートアップコンフィギュレーションファイルを格納する例を示します。

```
Rtr2# configure terminal

Rtr2(config)# ip ftp username netadmin2

Rtr2(config)# ip ftp password mypass

Rtr2(config)# end

Rtr2# copy nvram:startup-config ftp:

Remote host[]? 172.16.101.101

Name of configuration file to write [rtr2-config]?
Write file rtr2-config on host 172.16.101.101?[confirm]
![OK]
```

次の作業

copy EXEC コマンドを発行した後、追加情報またはアクションの確認を求めるプロンプトが表示される場合があります。表示されるプロンプトは、**copy** コマンドで入力した情報量および **fileprompt** グローバル コンフィギュレーション コマンドの現在の設定によって異なります。

TFTPサーバからルータへのコンフィギュレーションファイルのコピー

TFTP サーバーからデバイスへコンフィギュレーションファイルをコピーするには、以下のタスクを実行します。

手順の概要

1. **enable**
2. **copy tftp: [[[//location]/directory]/filename] system:running-config**
3. **copy tftp: [[[//location]/directory]/filename] nvram:startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	copy tftp: [[[//location]/directory]/filename] system:running-config 例： Device# copy tftp://server1/dir10/datasource system:running-config	TFTP サーバーから実行コンフィギュレーションへコンフィギュレーションファイルをコピーします。
ステップ 3	copy tftp: [[[//location]/directory]/filename] nvram:startup-config 例： Device# copy tftp://server1/dir10/datasource nvram:startup-config	TFTP サーバーからスタートアップコンフィギュレーションへコンフィギュレーションファイルをコピーします。

例

次に、IP アドレス 172.16.2.155 にある、tokyo-config という名前のファイルからソフトウェアを設定する例を示します。

```
Device1# copy tftp://172.16.2.155/tokyo-config system:running-config
Configure using tokyo-config from 172.16.2.155? [confirm] y
Booting tokyo-config from 172.16.2.155:!!! [OK - 874/16000 bytes]
```

次の作業

copy EXEC コマンドを発行した後、追加情報またはアクションの確認を求めるプロンプトが表示される場合があります。表示されるプロンプトは、**copy** コマンドで入力した情報量および **fileprompt** グローバル コンフィギュレーション コマンドの現在の設定によって異なります。

FTP サーバーからルータへのコンフィギュレーションファイルのコピー

FTPサーバーから実行コンフィギュレーションまたはスタートアップコンフィギュレーションへコンフィギュレーションファイルをコピーするには、以下のタスクを実行します。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip ftp username *username***
4. **ip ftp password *password***
5. **end**
6. **copy ftp: [[[//[*username* [:*password*]@]*location*]/*directory*]/*filename*]system:running-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	（任意）グローバル コンフィギュレーション モードを開始できます。この手順は、デフォルトのリモートユーザー名またはパスワードを上書きする場合にだけ必要です（ステップ 2 および 3 を参照）。
ステップ 3	ip ftp username <i>username</i> 例： Device(config)# ip ftp username user1	（任意）デフォルトのリモートユーザー名を指定します。
ステップ 4	ip ftp password <i>password</i> 例： Device(config)# ip ftp password guessme	（任意）デフォルトのパスワードを指定します。
ステップ 5	end 例： Device(config)# end	（任意）グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。この手順は、デフォルトのリモートユーザー名またはパスワードを上書きする場合にだけ必要です（ステップ 2 および 3 を参照）。
ステップ 6	copy ftp: [[[//[<i>username</i> [:<i>password</i>]@]<i>location</i>]/<i>directory</i>]/<i>filename</i>]system:running-config 例：	FTPを使用して、ネットワークサーバから実行メモリまたはスタートアップコンフィギュレーションへコンフィギュレーションファイルをコピーします。

	コマンドまたはアクション	目的
	<p>例 :</p> <p>or</p> <p>例 :</p> <pre>copy ftp:[[//[username [:password]@]location/directory]/filename] nvram:startup-config</pre> <p>例 :</p> <pre>Device# copy ftp://user1:guessme@company.com /dir10/datasource nvram:startup-config</pre>	

例

FTP の Running-Config のコピー

次に、host1-config という名前のホスト コンフィギュレーション ファイルを、IP アドレスが 172.16.101.101 のリモート サーバー上の netadmin1 ディレクトリからコピーし、デバイスでコマンドをロードして実行する例を示します。

```
Device# copy rcp://netadmin1:mypass@172.16.101.101/host1-config system:running-config

Configure using host1-config from 172.16.101.101? [confirm]
Connected to 172.16.101.101
Loading 1112 byte file host1-config:[OK]
Device#
%SYS-5-CONFIG: Configured from host1-config by ftp from 172.16.101.101
```

FTP の Startup-Config のコピー

次に、リモートユーザー名 netadmin1 を指定する例を示します。次に host2-config という名前のコンフィギュレーション ファイルを、IP アドレスが 172.16.101.101 のリモート サーバー上の netadmin1 ディレクトリからスタートアップ コンフィギュレーションへコピーします。

```
Rtr2# configure terminal
Rtr2(config)# ip ftp username
netadmin1
Rtr2(config)# ip ftp password
mypass
Rtr2(config)# end
Rtr2# copy ftp: nvram:startup-config
Address of remote host [255.255.255.255]? 172.16.101.101
Name of configuration file[rtr2-config]? host2-config
Configure using host2-config from 172.16.101.101?[confirm]
Connected to 172.16.101.101
Loading 1112 byte file host2-config:[OK]
[OK]
Rtr2#
%SYS-5-CONFIG_NV:Non-volatile store configured from host2-config by ftp from 172.16.101.101
```

次の作業

copy EXEC コマンドを発行した後、追加情報またはアクションの確認を求めるプロンプトが表示される場合があります。表示されるプロンプトは、**copy** コマンドで入力した情報量および **fileprompt** グローバル コンフィギュレーション コマンドの現在の設定によって異なります。

NVRAM より大きいコンフィギュレーションファイルの保守

NVRAM のサイズを超えるコンフィギュレーションファイルを保守するには、以降の項で説明する作業を実行します。

コンフィギュレーションファイルの圧縮

コンフィギュレーションファイルを圧縮するには、このセクションの手順を実行してください。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **service compress-config**
4. **end**
5. 次のいずれかを実行します。
 - 新しいコンフィギュレーションをコピーするには、FTP、rcp、または TFTP を使用します。
 - **configure terminal**
6. **copy system:running-config nvram:startup-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	service compress-config 例： Device(config)# service compress-config	コンフィギュレーションファイルを圧縮することを指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	end 例： Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • 新しいコンフィギュレーションをコピーするには、FTP、rcp、または TFTP を使用します。 • configure terminal 例： Device# configure terminal	新しいコンフィギュレーションを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • NVRAM のサイズの 3 倍以上のコンフィギュレーションをロードしようとする、次のエラー メッセージが表示されます。 「[buffer overflow -file-size /buffer-size bytes]。」
ステップ 6	copy system:running-config nvram:startup-config 例： Device(config)# copy system:running-config nvram:startup-config	実行コンフィギュレーションの変更が終わったら、新しいコンフィギュレーションを保存します。

例

次に、129KB のコンフィギュレーションファイルを 11KB に圧縮する例を示します。

```

Device# configure terminal

Device(config)# service compress-config

Device(config)# end

Device# copy tftp://172.16.2.15/tokyo-config system:running-config

Configure using tokyo-config from 172.16.2.155? [confirm] y

Booting tokyo-config from 172.16.2.155:!!! [OK - 874/16000 bytes]
Device# copy system:running-config nvram:startup-config

Building configuration...
Compressing configuration from 129648 bytes to 11077 bytes
[OK]
    
```

パーサー キャッシュの管理

パーサーキャッシュ機能を制御するには、次の項で説明する作業を実行します。これらの作業はすべて任意です。

パーサー キャッシュのクリア

パーサー キャッシュ機能によって格納された情報をクリアするには、このセクションのタスクを実行します。

手順の概要

1. **enable**
2. **clear parser cache**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	clear parser cache 例： Device# clear parser cache	パーサー キャッシュ機能に格納されている解析キャッシュエントリおよびヒット数とミス数の統計情報をクリアします。

パーサー キャッシュのディセーブル化

パーサー キャッシュ機能は、デフォルトでイネーブルにされています。パーサー キャッシュ機能を無効にするには、このセクションのタスクを実行します。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **no parser cache**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<p>no parser cache</p> <p>例 :</p> <pre>Device(config)# no parser cache</pre>	<p>パーサー キャッシュ機能をディセーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> パーサー キャッシュがディセーブルになると、noparsercache コマンドラインが実行コンフィギュレーション ファイルに書き込まれます。 システム リソースを解放するためにパーサー キャッシュをディセーブルにする場合は、noparsercache コマンドを発行する前にパーサー キャッシュをクリアする必要があります。パーサー キャッシュをディセーブルにした後は、パーサー キャッシュをクリアできません。

パーサー キャッシュの再イネーブル化

パーサー キャッシュ機能を無効にした後に再度有効にするには、このセクションのタスクを実行します。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **parser cache**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>enable</p> <p>例 :</p> <pre>Device> enable</pre>	<p>特権 EXEC モードを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<p>configure terminal</p> <p>例 :</p> <pre>Device# configure terminal</pre>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。</p>
ステップ 3	<p>parser cache</p> <p>例 :</p> <pre>Device(config)# parser cache</pre>	<p>パーサー キャッシュ機能をイネーブルにします。</p>

次の作業

showparserstatistics コマンドにより、次の 2 セットのデータが表示されます。

- コンフィギュレーションファイル内のコマンドのうち、最後に実行コンフィギュレーションにコピーされたコマンドの数、およびシステムがこれらのコマンドを解析するために要した時間（コンフィギュレーションファイルはシステムの起動時または **copy sourcerunning-config EXEC** コマンドなどのコマンドを発行することによって実行コンフィギュレーションにロードされます）。
- パーサーキャッシュのステータス（イネーブルまたはディセーブル）、およびシステムの起動以降またはパーサーキャッシュのクリア以降に一致したコマンドの数（ヒット数またはミス数）。

フラッシュメモリからスタートアップまたは実行コンフィギュレーションへのコンフィギュレーションファイルのコピー

フラッシュメモリから現在の NVRAM にあるスタートアップコンフィギュレーションまたは実行コンフィギュレーションへコンフィギュレーションファイルを直接コピーするには、ステップ 2 のいずれかのコマンドを入力します。

手順の概要

1. **enable**
2. 次のいずれかを実行します。
 - **copy filesystem** : [partition-number:][filename] **nvrām:startup-config**
 - **copy filesystem** : [partition-number:][filename] **system:running-config**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>enable</p> <p>例 :</p> <pre>Device> enable</pre>	<p>特権 EXEC モードを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • copy filesystem : [partition-number:][filename] nvrām:startup-config • copy filesystem : [partition-number:][filename] system:running-config <p>例 :</p> <pre>Device# copy slot0:4:ios-upgrade-1 nvrām:startup-config</pre>	<p>NVRAM にコンフィギュレーションファイルを直接ロードします。</p> <p>または</p> <p>現在の実行コンフィギュレーションにコンフィギュレーションファイルをコピーします。</p>

例

次に、スロット 0 にあるフラッシュ メモリ PC カードのパーティション 4 からルータのスタートアップ コンフィギュレーションへ ios-upgrade-1 という名前のファイルをコピーする例を示します。

```
Device# copy slot0:4:ios-upgrade-1 nvram:startup-config

Copy '
ios-upgrade-1
' from flash device
  as 'startup-config' ? [yes/no] yes

[OK]
```

FTP サーバーからフラッシュ メモリ デバイスへのコンフィギュレーション ファイルのコピー

FTP サーバーからフラッシュ メモリ デバイスへコンフィギュレーション ファイルをコピーするには、以下のタスクを実行します。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip ftp username *username***
4. **ip ftp password *password***
5. **end**
6. **copy ftp: [[[//[*username:password@*]*location*]/*directory*]/*filename*]**
*flash-filesystem:[*partition-number*:]*filename*]*

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例 : Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	configure terminal 例 : Device# configure terminal	(任意) グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。この手順は、デフォルトのリモートユーザー名またはパスワードを上書きする場合にだけ必要です (ステップ 3 および 4 を参照)。
ステップ 3	ip ftp username <i>username</i> 例 :	(任意) リモート ユーザー名を指定します。

次の作業

	コマンドまたはアクション	目的
	Device(config)# ip ftp username user1	
ステップ 4	ip ftp password <i>password</i> 例 : Device(config)# ip ftp password guessme	(任意) リモート パスワードを指定します。
ステップ 5	end 例 : Device(config)# end	(任意) コンフィギュレーションモードを終了します。このステップが必要になるのは、デフォルトのリモートユーザー名を上書きする場合のみです (ステップ 3 および 4 を参照)。
ステップ 6	copy ftp: [[[//[username:password@]location]/directory]/filename]flash-filesystem:[partition-number:][filename] 例 : Device> copy ftp:router-config slot0:new-config	FTP を使用してネットワーク サーバからフラッシュ メモリ デバイスへコンフィギュレーション ファイルをコピーします。

次の作業

copy EXEC コマンドを発行した後、追加情報またはアクションの確認を求めるプロンプトが表示される場合があります。表示されるプロンプトは、**copy** コマンドで入力した情報量および **fileprompt** グローバル コンフィギュレーション コマンドの現在の設定によって異なります。

rcp サーバからフラッシュ メモリ デバイスへのコンフィギュレーション ファイルのコピー

rcp サーバからフラッシュ メモリ デバイスへコンフィギュレーション ファイルをコピーするには、以下のタスクを実行します。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ip rcmd remote-username *username***
4. **end**
5. **copy rcp: [[[//[username@]location]/directory]/filename] flash-filesystem:[partition-number:][filename]**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	（任意）グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。この手順は、デフォルトのリモートユーザー名またはパスワードを上書きする場合にだけ必要です（ステップ 3 および 4 を参照）。
ステップ 3	ip rcmd remote-username <i>username</i> 例： Device(config)# ip rcmd remote-username user1	（任意）リモートユーザー名を指定します。
ステップ 4	end 例： Device(config)# end	（任意）コンフィギュレーションモードを終了します。この手順は、デフォルトのリモートユーザー名またはパスワードを上書きする場合にだけ必要です（ステップ 3 および 4 を参照）。
ステップ 5	copy rcp: [[[/<i>username@</i>]<i>location</i>]/<i>directory</i>]/<i>filename</i>] flash-fileSystem:[<i>partition-number</i>]:[<i>filename</i>] 例： Device# copy rcp:router-config slot0:new-config	rcp を使用してネットワーク サーバからフラッシュメモリ デバイスへコンフィギュレーションファイルをコピーします。追加情報または確認を要求するルータからのプロンプトに対し応答します。このプロンプトは、 copy コマンドで入力した情報量および fileprompt コマンドの現在の設定によって異なります。

TFTP サーバーからフラッシュメモリ デバイスへのコンフィギュレーションファイルのコピー

TFTP サーバからフラッシュメモリ デバイスへコンフィギュレーションファイルをコピーするには、以下のタスクを実行します。

手順の概要

1. **enable**
2. **copy tftp: [[[/*location*]/*directory*]/*filename*] flash-fileSystem:[*partition-number*]:[*filename*]**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>enable</p> <p>例 :</p> <pre>Device> enable</pre>	<p>特権 EXEC モードを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<p>copy tftp: [[[/location]/directory]/filename] flash-filesystem:[partition-number:][filename]</p> <p>例 :</p> <pre>Device# copy tftp:router-config slot0:new-config</pre>	<p>TFTP サーバからフラッシュ メモリ デバイスへファイルをコピーします。追加情報または確認を要求するデバイスからのプロンプトに対し応答します。このプロンプトは、copy コマンドで入力した情報量および fileprompt コマンドの現在の設定によって異なります。</p>

例

次の例は、TFTP サーバから Cisco 7500 シリーズ デバイスのネットワーク処理エンジン (NPE) またはルート スイッチ プロセッサ (RSP) カードのスロット 0 に挿入されたフラッシュメモリカードへ Device-config という名前のコンフィギュレーションファイルをコピーする例を示します。コピーされたファイルの名前は new-config に変更されます。

```
Device# copy tftp:router-config slot0:new-config
```

スタートアップコンフィギュレーションファイルでのコンフィギュレーションコマンドの再実行

スタートアップコンフィギュレーションファイルのコマンドを再実行するには、このセクションのタスクを実行します。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure memory**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>enable</p> <p>例 :</p> <pre>Device> enable</pre>	<p>特権 EXEC モードを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • パスワードを入力します (要求された場合)。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	configure memory 例 : Device# configure memory	スタートアップコンフィギュレーションファイルにあるコンフィギュレーションコマンドを再実行します。

スタートアップコンフィギュレーションのクリア

スタートアップコンフィギュレーションから設定情報を消去できます。スタートアップコンフィギュレーションなしでルータをリブートした場合は、ルータを最初から設定できるように、ルータは **Setup** コマンドファシリティに移行します。スタートアップコンフィギュレーションの内容を消去するには、このセクションのタスクを実行します。

手順の概要

1. **enable**
2. **erase nvram**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例 : Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	erase nvram 例 :	スタートアップコンフィギュレーションの内容をクリアします。

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>Device# erase nvram</pre>	<p>(注) クラス A フラッシュ ファイル システムのプラットフォーム以外のすべてのプラットフォームでは、このコマンドにより NVRAM が消去されます。スタートアップ コンフィギュレーション ファイルは、いったん削除すると復元できません。クラス A フラッシュ ファイル システムのプラットフォーム上では、erasestartup-configEXEC コマンドを使用すると、CONFIG_FILE 環境変数により指定されたコンフィギュレーションが、デバイスにより削除されます。この変数が NVRAM を指定している場合は、デバイスにより NVRAM が消去されます。CONFIG_FILE 環境変数がフラッシュ メモリ デバイスとコンフィギュレーション ファイル名を指定している場合は、デバイスによりコンフィギュレーション ファイルが削除されます。つまり、そのコンフィギュレーション ファイルはデバイスにより消去されるのではなく、「削除済み」としてマークされます。この機能では、削除されたファイルを回復できません。</p>

指定されたコンフィギュレーションファイルの削除

特定のフラッシュデバイスの指定された設定を削除するには、このセクションのタスクを実行します。

手順の概要

1. **enable**
2. **delete flash-filesystem : filename**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
<p>ステップ 1</p>	<p>enable</p> <p>例 :</p> <pre>Device> enable</pre>	<p>特権 EXEC モードを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • パスワードを入力します (要求された場合)。

	コマンドまたはアクション	目的
<p>ステップ 2</p>	<p>delete <i>flash-filesystem</i> : <i>filename</i></p> <p>例 :</p> <pre>Device# delete slot0:myconfig</pre>	<p>指定されたフラッシュデバイス上の指定されたコンフィギュレーション ファイルを削除します。</p> <p>(注) クラス A および B フラッシュ ファイルシステムでは、フラッシュ メモリ内の特定のファイルを削除すると、そのファイルは削除済みとしてシステムによりマークされます。これにより、undelete EXEC コマンドを使用して、削除したファイルを後で回復できるようになります。消去されたファイルは回復できません。コンフィギュレーション ファイルを完全に消去するには、squeeze EXEC コマンドを使用します。クラス C フラッシュ ファイルシステムでは、削除されたファイルは回復できません。CONFIG_FILE 環境変数で指定されたコンフィギュレーション ファイルを消去または削除しようとした場合、システムにより削除の確認を求めるプロンプトが表示されます。</p>

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。